

京大医学部の最先端授業！「合理的思考」の教科書

著者名：中山健夫

出版者：すばる舎

出版年：2012年

頁 数：215p.

価 格：1,400円＋税

ISBN：9784799101056



さてこれを読んでおられる皆さんも、日々大量の情報に接し、思考し、意志決定する毎日を送っていることでしょう。そんな難しいことはしていない？ いいえ、「今日は雨が降りそうだから、傘を持っていこう」というだけでも、すでに周囲の情報を判断して行動を起こしているのです。そのような日常に氾濫する情報への思考・判断を縋いて、「それは根拠にもとづいた（＝Evidenced-Based）合理的思考ですか？」と再考をうながすのが本書の大きなメッセージです。

「TPPに参加しなければ、実質GDPが約10兆5000億円減少するそうさ。だからTPPに参加するべきだ」「新開発の痛み止め薬は、効果が2倍になったらしい。よく効くにちがいない」…一見これらの意見は具体的な情報をもとに判断しているように思われます。ですが、その情報の読み解き方によって、まったく異なる側面が見えてきます。例えば「GDPが減少する」と発表しているのが経済産業省だということを調べると、輸出産業に有利なTPPの利点を強調している可能性が出てきます。また、「薬の効果が2倍になった」と言っても、実験結果を見ると100人中20人に効いていたのが100人中40人に効くようになったということであると、結局6割の人には効かない薬だということになります。そうすると、最初の判断は果たして最善と呼べるのでしょうか。

本書は普段の思考の穴をつきながら、上記のような身近な例に、PECOやEBMといった医療現場の「合理的思考」方法を当てはめ、一歩引いた判断を考えさせてきます。特に第3章「その数字の読み解き方、間違っています！」は、ややもすれば“揺るぎない根拠”と判断しがち（苦手な人は特に！）な数字のマジックを丁寧に解説し、目から鱗を落としてくれるおすすめの章です。

一度判断を誤れば人命に関わる医療の現場で発達した「合理的思考」の方法論。読むといつもの生活が少し深く考えられるようになるでしょう。

（京都大学医学図書館 八木澤ちひろ）